3_153.xls 結果

		■使	用評価マニュアル: CASBEE:追集(青集)2016年版、名古屋	####################################	: CASBEE_Nagoya_2016(v	
1-1 建物概要				1-2 外観		
建物名称	(仮称)エスリード中区千代田三丁目 新築工事	 階数	地上15F			
上版 	名古屋市中区千代田三丁目2103番	→「ログ 「構造	RC造			
= 0.25 月途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	98 人	-		
	6地域					
域区分		年間使用時間	XXX 時間/年(想定値		/-	
物用途	集合住宅,	評価の段階	実施設計段階評価	<i>外観パース</i> 等		
工年 (地面積	2023年7月 予定 552 ㎡	評価の実施日 ──作成者	2022年2月15日	図を貼り付け	るとさは を解除してください	
^{【地画傾} ፟禁面積	250 m ²	確認日	2022年2月18日	ソートの休哉	を呼味してください	
床面積	3,199 m²	確認者	2022-27/101			
	· ·					
-1 建築物の	環境効率(BEEランク&チャー)	ト 2-2 ライフサイクルC	O ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レー	ダーチャート)	
* :S: * * * * *	A: *** B ¹ : ** B ² : **	○ ★:★★ 100%超:★★★	100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:	Q2 サー ス性能 ⁵		
100	3.0 1.5 BEE=1.0	標準計算	縒・更新・解体 □運用 □オンサイト □オフサイト	Q ₁	Q3 室外環	
S O	A B+ 0.7 0.5	①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+	98% 98% 98%	室内環境 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	境 (敷地内) LR3 敷地外環 境	
0	50 環境負荷 L 評価(パーチャート)		46 92 138 (kg-CO ₂ /年・m² 也球温暖化への配慮」の内容を、一般 たライフサイクルCO2 排出量の目安) LR2 資源 マテリア		
4 中頃日の。 環境品質	計画(ハーナヤート)			<i>Qのスコア</i> =	= 2.6	
Q1 室内環境		Q2 サービス性能		Q3 室外環境(敷地内)	2.0	
Q1 王F1000元	Q1のスコア= 3.0	QZ / CXIII	Q2のスコア= 2.6	Q0 主// 林光(放起F1/	Q3のスコア= 1.9	
	Q107/17 - 333	5		5	4007/17 1 110	
		4		4		
		3		3		
3.0	3.0 3.1 3.2	2 2.5	2.9		3.0	
		1		1.0	1.5	
音環境	温熱環境 光·視環境 空気質環境	機能性	耐用性 対応性	生物環境 まちた	いな 地域性・	
環境負荷低				<i>LR のスコア</i> =	= 2.8	
LR1 エネルキ		LR2 資源・マテ!		LR3 敷地外環境		
	LR1のスコア= 3.1	5	LR2のスコア= 2.6	5	LR3のスコア=2.6	
		4		4		
	3.3	3		3	0.0	
3.0	3.0	2 3.0	2.7	2 3.0	3.0	
		1		1	1.8	
建物外皮の	自然エネ 設備システ 効率的	」	非再生材料の 汚染物質	地球温暖化地域	環境 周辺環境	
設計上の配合 分場水栓・ガス給流	。 属事項 湯器等を採用することで環境に配慮し	<i>t</i> = 。		その他		
1 室内環境		Q2 サービス性能		Q3 室外環境(敷地内)		
	使用し化学汚染物質の軽減に努めた。	光ファイバーネットに対	応可能とした。	製地内緑地面積を10%確保した 関地内緑地面積を10%確保した		
R1 エネルギー		LR2 資源・マテリア	IR2 資源・マテリアル			
ガス給湯器を採用し、効率を向上させた。			節湯水栓を採用し、資源の有効利用に配慮した。		ガス給湯器を採用し、温暖化防止へ配慮した。	
LR1 エネルギー	-	LR2 資源・マテリア	`JV	LR3 敷地外環境		

- ■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency(建築環境総合性能評価システム)
- ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率) ■「ライフサイクルCO。」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- ■評価対象のライフサイクルCO2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE 名古屋

▋評価結果▮

重点項目スコア・結果シート

(仮称)エスリード中区千代田三丁目 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目			全体に対する 重み係数	重点項目 スコア	
1. 温暖化対策					
LR1	エネルギー	3.2	0.4		
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1		
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.05		
2. 自然共生					
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09		
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上 である材料の使用※1 まちなみ・景観への配慮	無	0.009		
Q3.2 Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045		
3. 循環型社会					
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06		
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18		
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875		

結果 評価点 = 2.9 2. 自然共生 評価点 = 1.3 3. 循環型社会 評価点 = 2.6

重点項目のスコアは以下のように算出している。

重点項目スコア= (評価点×全体に対する重み)の総和 全体に対する重みの総和

※1 ここでは、Q3.3.1の評価する取組みのうち評価項目 I 2)地域性のある材料の使用 又は、Q3.2において評価する取組みのうち評価項目 4)地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3.3.1の全体に対する重みに0.2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。